

モリト株式会社

## 2026年11月期 第1四半期決算概要

---

東証プライム 証券コード9837

2026年4月

あたりまえに、新しさ。 MORITO

## CONTENTS

---

- 1 (参考)会社概要
- 2 2026年11月期1Q 業績概要
- 3 2026年11月期1Q セグメント情報
- 4 (参考)事業別営業利益
- 5 事業トピックス
- 6 株主還元策
- 7 (参考)第8次中期経営計画

# 1

## (参考) 会社概要

---

# モリトグループの価値観

---

## 創業理念

**積極・堅実**

## 経営理念

**パーツでつなぐ、あなたとつながる、未来につなげる**

## 経営ビジョン

**存在価値を創造する、  
あたらしい「モリトグループ」の実現**

# 会社概要

## ●1908年創業

- ・大阪にてハトメ・ホックの仲買商として開業
- ・その後、マジックテープ®など服飾の付属品、自動車内装部品の販売を中心に拡大

## ●製造機能も併せ持つメーカー的機能を持つ商社

- ・企画・開発から製造に加え、卸・流通までを一貫して手掛ける専門商社
- ・世界に22拠点展開

## ●3つの事業を展開

- ・アパレル関連、プロダクト関連、輸送関連が事業の柱
- ・自社生産30%、調達70%ほどの構成



ハトメ

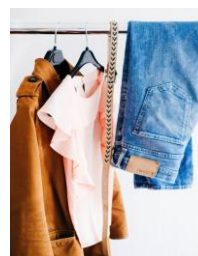


ホック



マジックテープ®

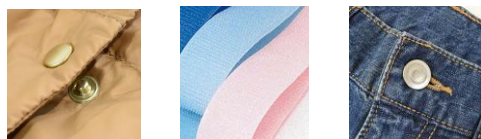
※ハトメ：靴・衣類などに紐を通す穴に取り付ける環状の金具



# 事業別詳細

## アパレル関連事業

〈取り扱い商品例〉



ホック      マジックテープ®      ボタン



テープ      ハトメ・靴紐



自社ブランド製品

活用例

カジュアルウェア・シューズ  
 スポーツウェア・シューズ  
 作業服・シューズ  
 メディカルウェア、ベビーウェア  
 フォーマルウェア・シューズ  
 バッグ・アクセサリー  
 レディースウェア

## プロダクト関連事業

〈取り扱い商品例〉



マジックテープ®      グリスフィルター      インソール



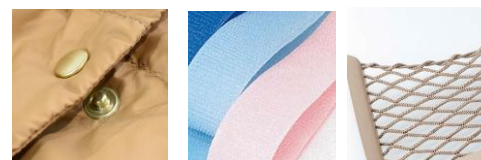
ストラップ      スケートボード・自社ブランド  
 スノーボード・サーフィン

活用例

インソール・シューケア商品  
 カメラ/PCケース・マウスパッド  
 等映像機器関連商品  
 サポーター、安全関連商品、教具・文具  
 スケートボード・サーフィン等  
 アクションスポーツ関連商品  
 グリスフィルターレンタルサービス

## 輸送関連事業

〈取り扱い商品例〉



ホック      マジックテープ®      ネット



エンブレム      トランク  
 フロアボード

活用例

自動車内装部品  
 鉄道・新幹線内装部品  
 航空機内装部品

# モリトの強み

---

## ● 流行に左右されない、生活必需品向けのビジネスが多数

日常生活に欠かせないもののパーツを扱っているため、流行・景気に左右されにくく、継続的に販売ができるビジネスが多数。

## ● ポートフォリオが分散して安定した業績

アパレル・プロダクト・輸送関連の3つの事業を柱に、ワールドワイドに事業を展開。オイルショックやリーマンショック、新型コロナウイルス感染拡大の影響などがあったとしても、赤字にならず安定した業績を維持。

## ● ニッチ分野をターゲットに、多彩なアイテムで高シェアをマーク

各業界分野でシェア率の高い商品多数。  
金属ホックは日本で1位、世界でも1位、2位を争う。

## ● 製造・調達・販売をグローバルに展開

自社拠点以外にも、協力工場や代理店が世界各地にあり、あらゆる顧客ニーズにできるだけ近くで対応。

## モリトの高付加価値商品 商品例紹介

顧客・消費者ニーズを叶える付加価値を加えたオリジナル商品を独自に開発し、高機能・高品質を求められる顧客の採用を獲得。定番商品よりも利益率が高い商品群。



### 商品名：らくらく感®

フォーマルウェア、ユニフォーム等のボトムスのファスナーの上に使われる「前カン」とバネを組み合わせた商品。

食事後など腹部のサイズが変わると、バネの力で自然に伸縮し、圧迫感を軽減。

### 商品名：テープスナッパー®

樹脂ホックとテープが一体になっている商品。顧客の縫製工場で樹脂ホックを取り付ける工程を省き、テープを生地に縫製するだけで済むため、工場での設備投資が不要。外れるリスクが少なく、安心安全で、ベビー・キッズ向けブランドに人気。



2

## 2026年11月期1Q 業績概要

---

## トップメッセージ

---

- 売上高・営業利益・経常利益は四半期開示を始めて以来、過去最高を更新、売上総利益も30%台維持。
- アパレル関連事業は、Ms.ID・ミツボシコーポレーションの連結効果に加え、ベトナムでのスポーツシューズ向け付属品が好調。
- ODM・OEM事業の好調、厨房機器サービスの拡大により、プロダクト関連事業も堅調に推移。
- 輸送関連事業は日本・欧州で健闘。
- 中東情勢・米国経済環境などを考慮し、現時点では通期計画を据え置き、進捗としては想定よりも好調に推移。

## 2026年11月期1Q 通期業績サマリー

(百万円)	(参考) 2024.1Q	2025.1Q	2026.1Q	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	11,744	12,161	<b>16,681</b>	+4,519	+37.2%
売上総利益	3,378	3,526	<b>5,069</b>	+1,542	+43.7%
(%)	(28.8%)	(29.0%)	<b>(30.4%)</b>		
経費	2,715	2,909	<b>4,030</b>	+1,121	+38.5%
(%)	(23.1%)	(23.9%)	<b>(24.2%)</b>		
営業利益	662	617	<b>1,038</b>	+420	+68.1%
(%)	(5.6%)	(5.1%)	<b>(6.2%)</b>		
経常利益	669	689	<b>1,046</b>	+357	+51.8%
(%)	(5.7%)	(5.7%)	<b>(6.3%)</b>		
当期純利益	564	601	<b>660</b>	+59	+9.8%
(%)	(4.8%)	(4.9%)	<b>(4.0%)</b>		

※2025年11月期1Qには、Ms.ID・ミツボシコーポレーションを含んでおらず

## 2026年11月期1Q 計画進捗について

Ms.IDの通期連結に加え、ミツボシコーポレーション・既存事業が好調に推移し、売上高・営業利益ともに想定以上に推移。一方で、輸送関連事業をはじめ、地政学リスクによる影響を考慮し、現時点では通期予想を据え置き。

(単位：百万円)

	2026.1Q実績	2026 通期業績予想	進捗度
売上高	16,681	63,000	26.5%
営業利益	1,038	3,500	29.7%
(%)	6.2%	5.6%	
経常利益	1,046	3,700	28.3%
(%)	6.3%	5.9%	
当期純利益	660	3,000	22.0%
(%)	4.0%	4.8%	

## 2026年11月期1Q 前年同期比 主な変動要因

売上高・営業利益・経常利益が四半期開示を始めて以来、過去最高を更新。

	前年同期比	主な変動要因 (+)改善要因 (-)悪化要因
売上高	+4,519百万円 +37.2%	(+) Ms.ID、ミツボシコーポレーションの通期連結 (+) 健康関連商品、厨房機器関連サービスが好調 (+) ベトナムでのスポーツシューズ向け付属品が好調 (-) アクションスポーツ関連の減少
売上総利益	+1,542百万円 +43.7%	(+) Ms.ID、ミツボシコーポレーションの通期連結 (+) 売上総利益率水準の改善・維持への意識が社内に浸透
営業利益	+420百万円 +68.1%	(+) 売上総利益の改善 (-) 人件費の増加、Ms.IDの販売に関わる経費などによる経費の増加
経常利益	+357百万円 +51.8%	(+) 営業利益の増加 (-) 為替差益の減少
当期純利益	+59百万円 +9.8%	(+) 経常利益の増加

# 2026年11月期1Q 売上高・売上総利益率の推移

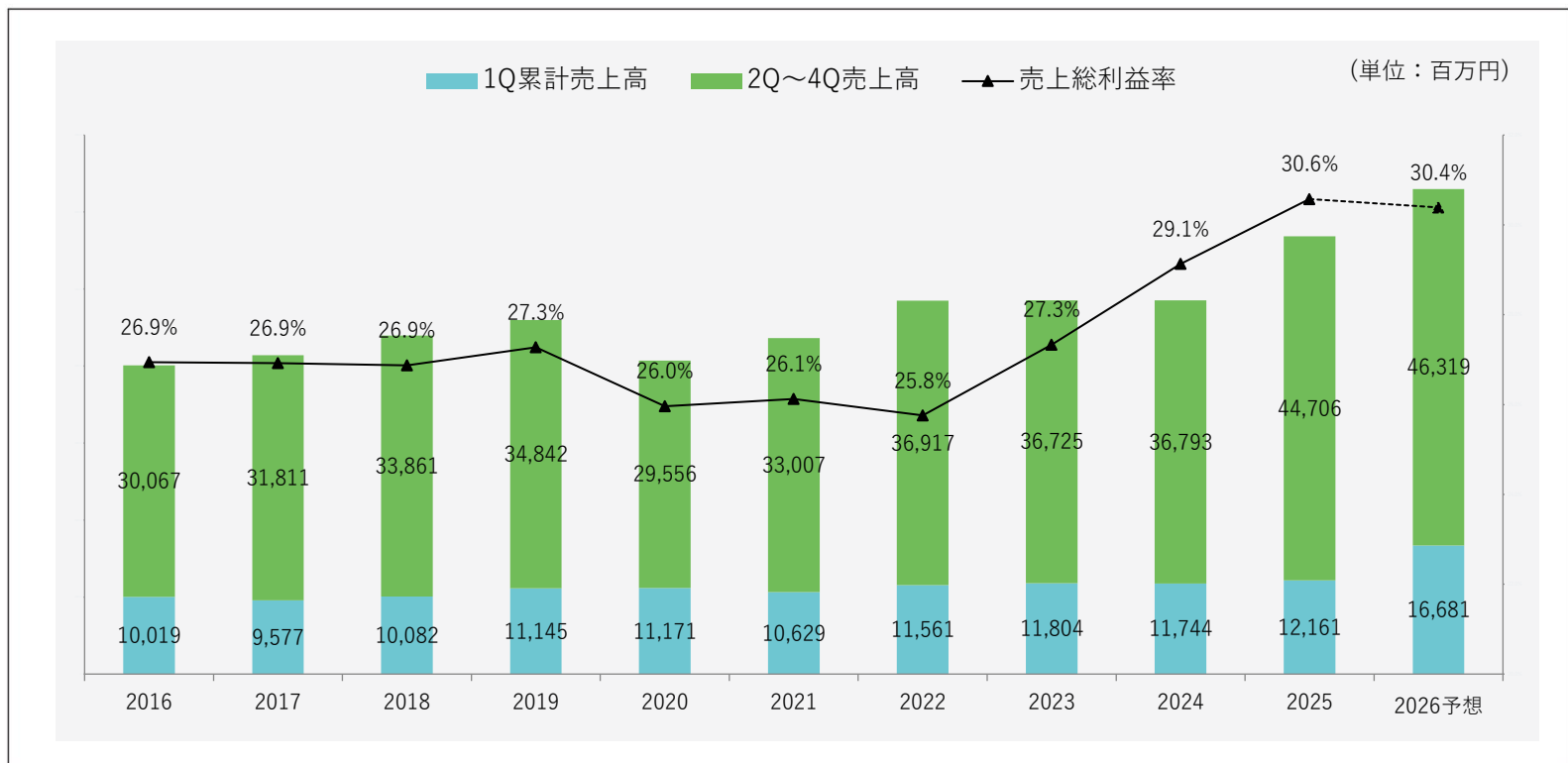
M&Aによる2社の連結を除く、既存事業の売上総利益率も着実に改善が続く。

## 【売上総利益率 プラス要因】

- ・ Ms.IDの連結
- ・ 売上総利益率水準の改善、維持への意識が社内に浸透

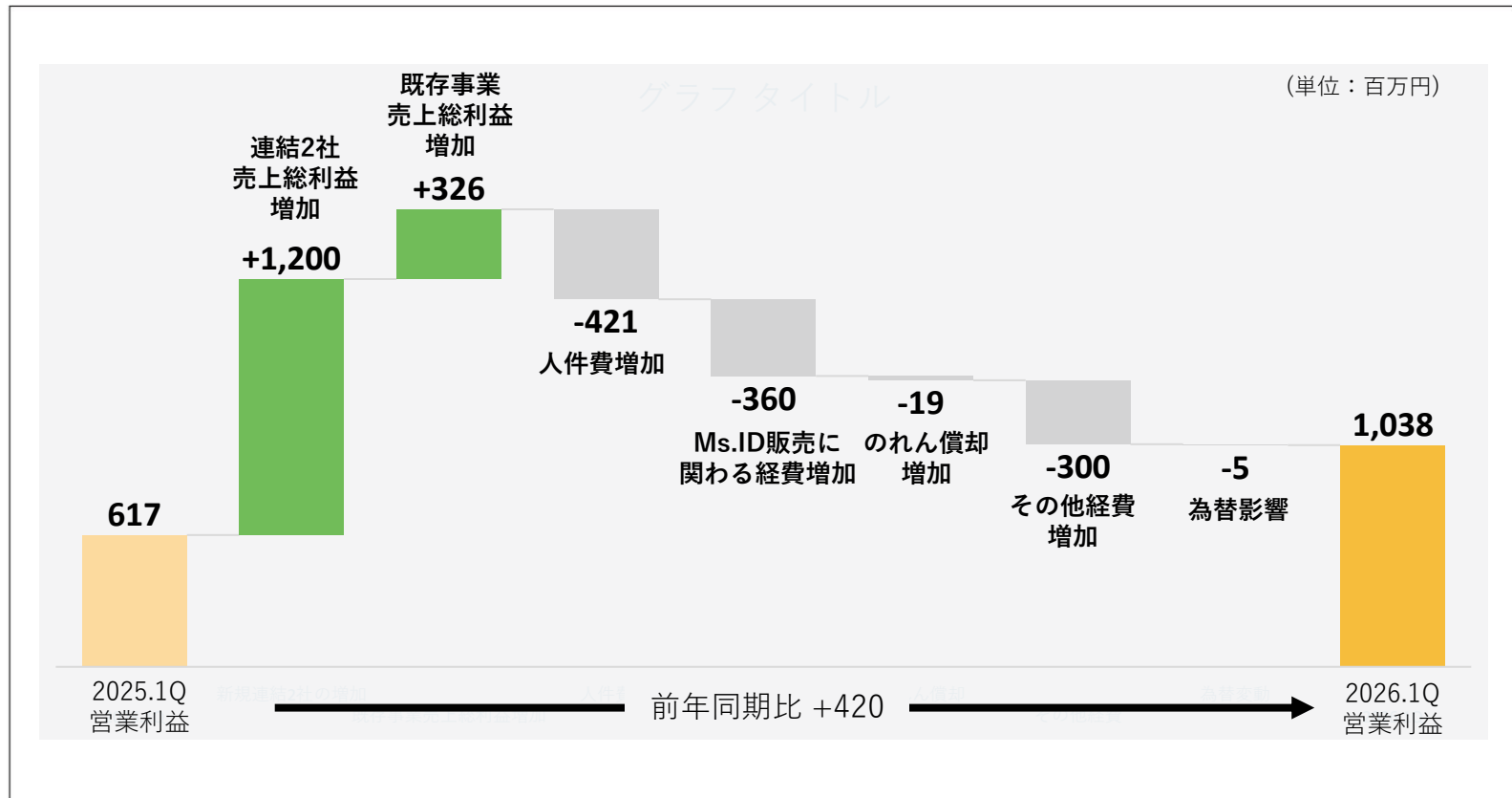
## 【売上総利益率 マイナス要因】

- ・ ミツボシコーポレーションの連結



# 2026年11月期1Q 営業利益増減（前年同期比）

通期業績予想に織り込んでいるとおり、人件費・Ms.IDのBtoC販売に関わる経費を中心に経費は増加。一方で、Ms.ID・ミツボシコーポレーション連結に加え、既存事業の拡大が寄与し、営業利益が増加。



## 2026年11月期1Q 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2025.4Q	2026.1Q
<b>資産の部</b>		
流動資産	31,001	31,374 (+373)
固定資産	24,497	25,835 (+1,338)
資産合計	55,498	57,210 (+1,711)

	2025.4Q	2026.1Q
<b>負債の部</b>		
流動負債	10,217	10,866 (+648)
固定負債	5,448	5,817 (+369)
負債合計	15,666	16,684 (+1,018)
<b>純資産の部</b>		
株主資本	33,221	32,363 (-858)
その他の 包括利益累計額	6,610	8,163 (+1,552)
純資産合計	39,832	40,526 (+693)
負債純資産合計	55,498	57,210 (+1,711)

自己資本比率 2026/11期 1Q：70.8%  
(2025/11期：71.8%)

3

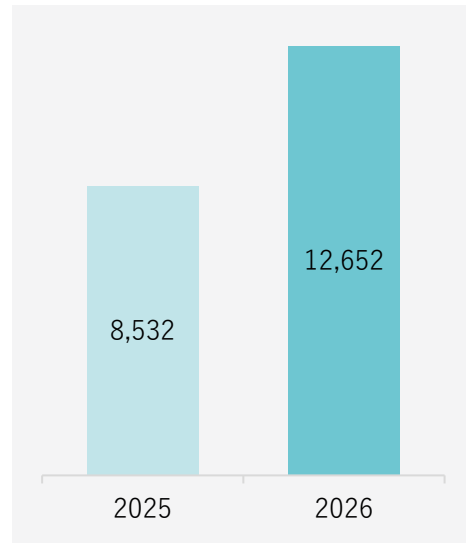
## 2026年11月期1Q セグメント情報

---

# 2026年11月期1Q 地域別売上高・外部環境

(単位：百万円)

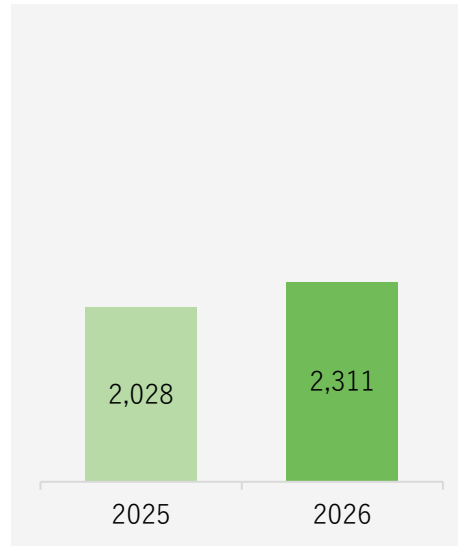
日本  
売上構成比：76%



前年同期比 +4,119百万円  
(+48.3%) ↑

2社通期連結  
ODM・OEMの好調

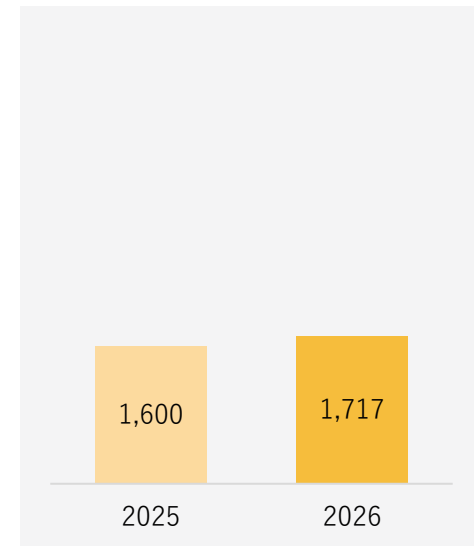
アジア  
売上構成比：14%



前年同期比 283百万円  
(+14.0%) ↑

ベトナムでの生産増加  
日系自動車メーカーの苦戦

欧米  
売上構成比：10%



前年同期比 +116百万円  
(+7.3%) ↑

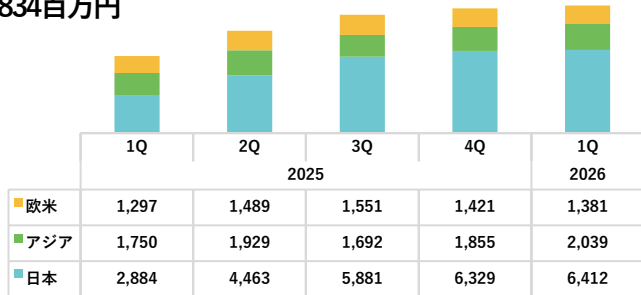
米国メディカルウェアが堅調  
欧州の輸送関連増加

# 2026年11月期1Q 事業別売上高・コメント

売上高	前年同期比	コメント
-----	-------	------

## アパレル関連事業 9,834百万円

※アジア・欧米の売上高には決算短信(セグメント情報等)に記載の「その他の収益」を含む

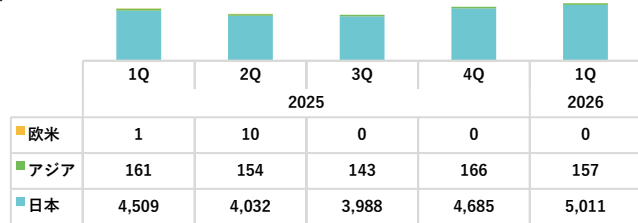


+3,901百万円  
+65.8%

- 【日本】  
 (+)Ms.ID連結、シルバーアクセサリーの増加  
 (+)ミツボシコーポレーション連結、ユニフォーム関連資材の増加  
 (+)高級バッグ向け付属品の増加  
 (-)秋物需要の停滞によりファッションアパレル向け資材が軟調に推移
- 【アジア】  
 (+)中国カジュアルウェア向け付属品の増加  
 (+)ベトナムでのスポーツシューズ向け付属品の増加
- 【欧米】  
 (+)米国でのメディカルウェア向け付属品の増加

## プロダクト関連事業 5,169百万円

※アジアの売上高には決算短信(セグメント情報等)に記載の「その他の収益」を含む

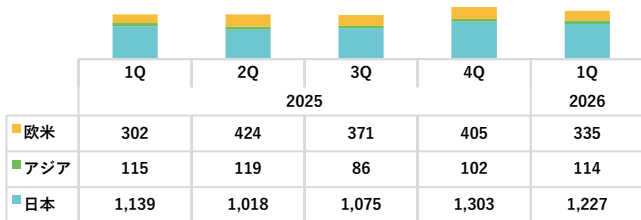


+496百万円  
+10.6%

- 【日本】  
 (+)健康関連商品、文具・ゲーム関連商品、猛暑対策商品の増加  
 (+)厨房機器レンタル・販売・清掃事業の増加  
 (-)アクションスポーツ関連商品の減少

## 輸送関連事業 1,678百万円

※欧米の売上高には決算短信(セグメント情報等)に記載の「その他の収益」を含む

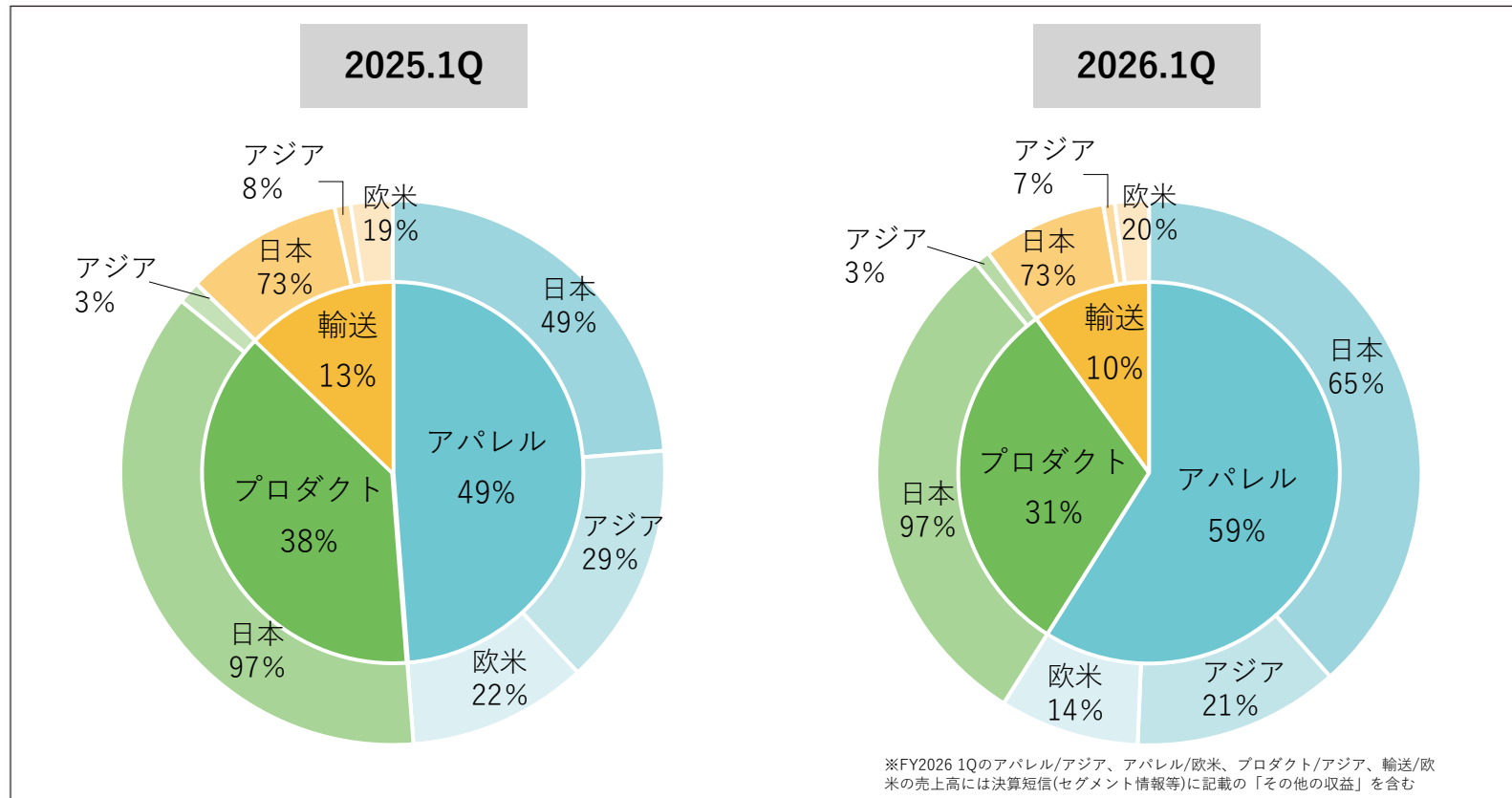


+121百万円  
+7.8%

- 【日本】  
 (+)日系自動車メーカー向け自動車内装部品の増加
- 【アジア】  
 (-)中国での日系自動車メーカー向け自動車内装部品の減少
- 【欧米】  
 (+)欧州での日系自動車メーカー向け自動車内装部品の増加

## (参考) 2026年11月期1Q 地域別×事業別 売上構成

Ms.IDとミツボシコーポレーション連結により、アパレル関連事業の日本が増加。  
2026年11月期通期では、アパレル関連事業の割合がもう一段増える見込み。



## (参考) 2026年11月期1Q セグメント別売上高

(単位：百万円)

2026 実績				
	1Q	構成比	増減額	増減率
日本	12,652	75.8%	+4,119	+48.3%
アジア	2,311	13.9%	+283	+14.0%
欧米	1,717	10.3%	+116	+7.3%
合計	16,681	100.0%	+4,519	+37.2%

2025 実績								
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	構成比	増減額	増減率
日本	8,532	9,514	10,944	12,319	41,310	72.6%	+8,298	+25.1%
アジア	2,028	2,204	1,922	2,125	8,280	14.6%	-92	-1.1%
欧米	1,600	1,924	1,922	1,827	7,275	12.8%	+123	+1.7%
合計	12,161	13,643	14,790	16,271	56,867	100.0%	+8,330	+17.2%

# 4

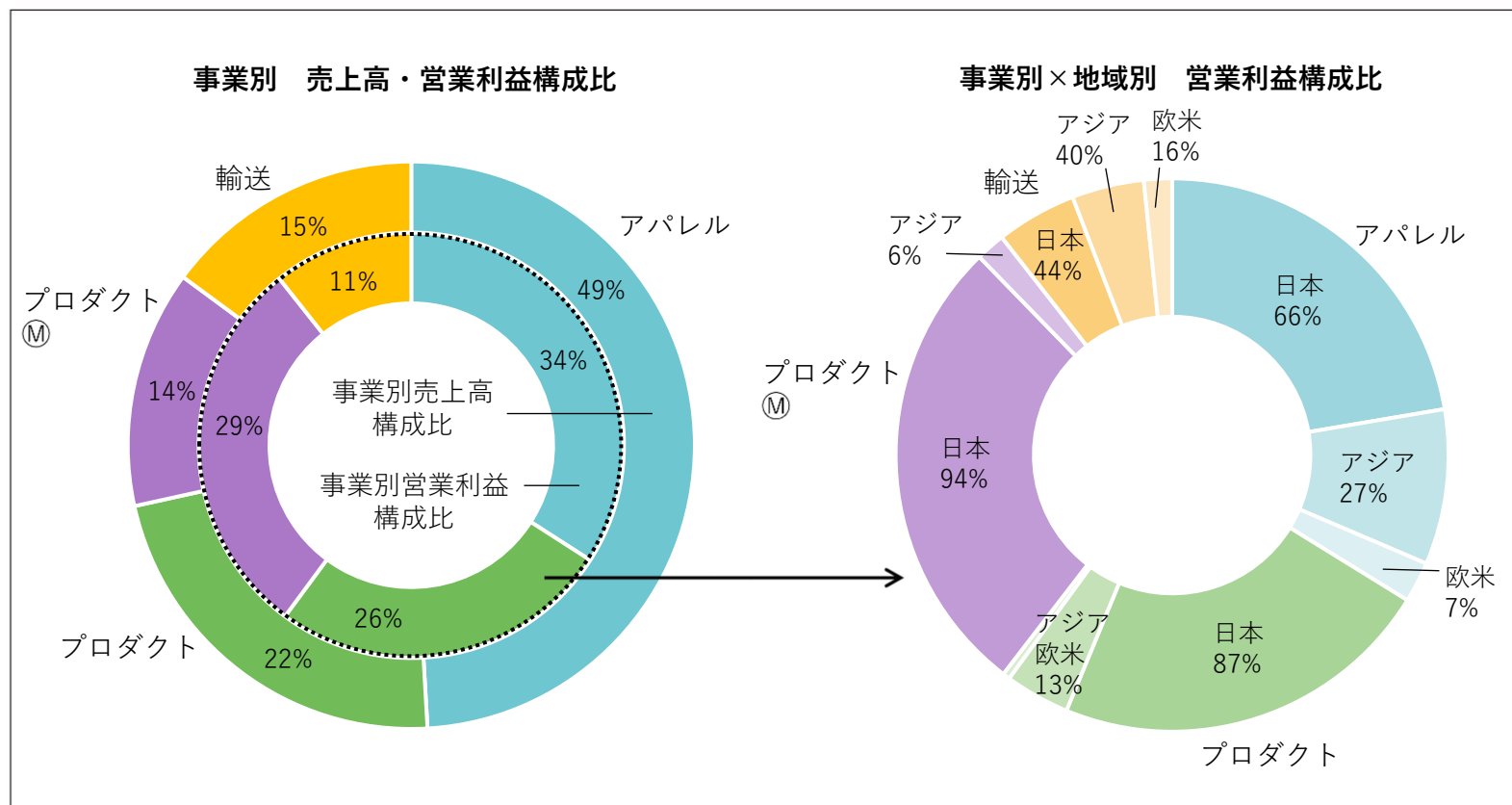
## (参考)事業別営業利益

---

# 2025年11月期1Q 事業別・地域別 売上高・営業利益構成比

セグメント利益の表示に際し、プロダクト関連事業のうち買収等によりモリトグループに加わったビジネスをプロダクト<sup>Ⓜ</sup>と分類。プロダクト<sup>Ⓜ</sup>の具体的な会社名はP24に記載。

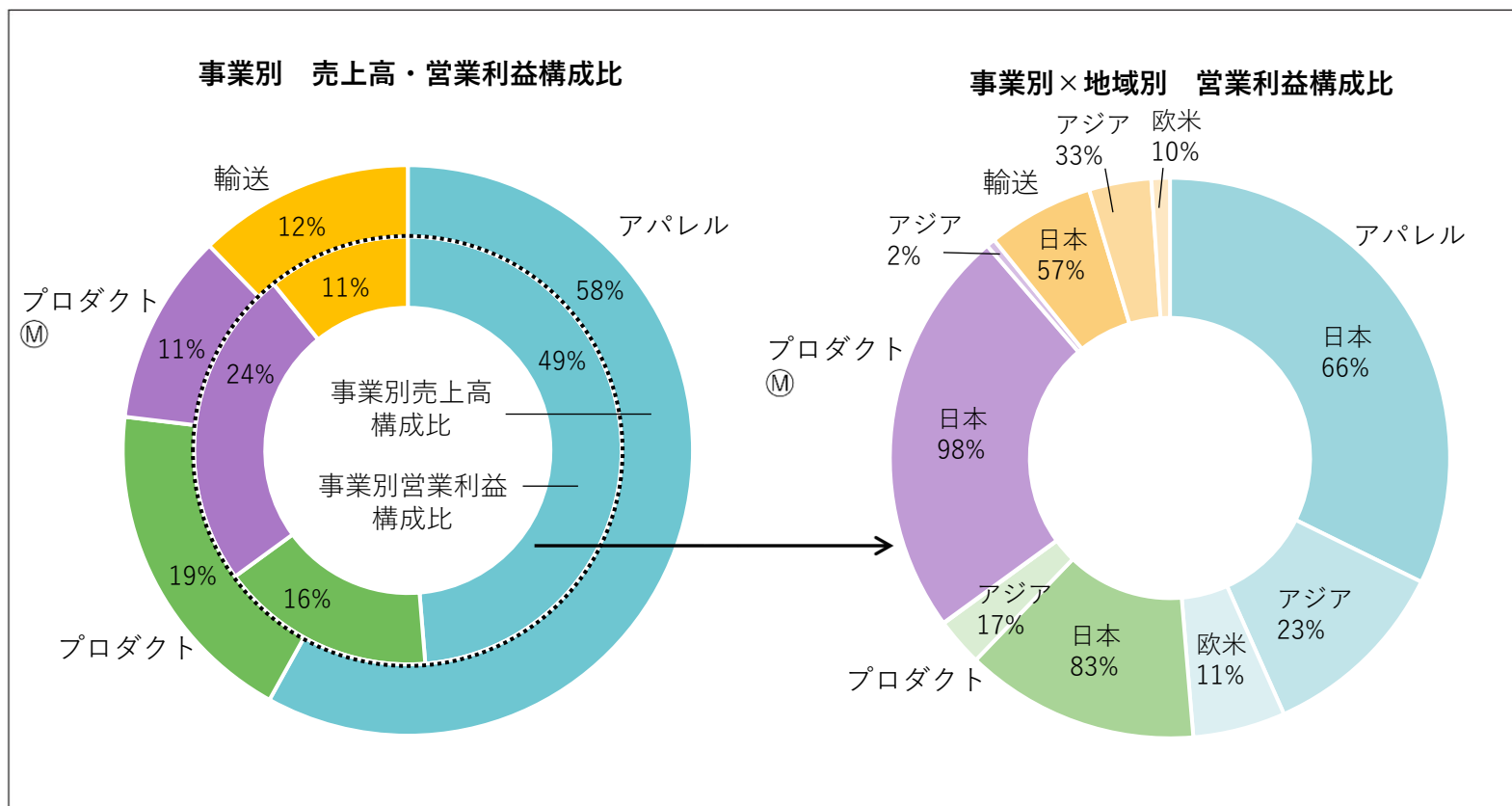
※グラフは連結消去やのれん償却前の数値から作成しており、他の資料と異なる可能性があります。



# 2026年11月期1Q 事業別・地域別 売上高・営業利益構成比

日本のアパレルは2社の連結効果により増加。厨房機器サービスやアクションスポーツ関連などのプロダクト<sup>®</sup>、国内の輸送関連事業も利益面で貢献。

※グラフは連結消去やのれん償却前の数値から作成しており、他の資料と異なる可能性があります。



# セグメント別 グループ会社一覧

	アパレル関連事業	プロダクト関連事業	輸送関連事業
日本	モリトアパレル	モリトジャパン	モリトオートパーツ
	マテックス	エース工機	プロダクト <sup>®</sup>
	Ms.ID	マニューバーライン	
	ミツボシコーポレーション	キャンバス	
※キャンバスは、2026年4月1日付でマニューバーラインに吸収合併			
アジア	MORITO SCOVILL HONG KONG		
	摩理都（上海）		
	MORITO TRADING (THAILAND)		
	摩理都工貿（深圳）		
	MORITO DANANG		
	SCOVILL FASTENERS INDIA		
	上海マテックス		
欧米	上海ミツボシ		
	MORITO (EUROPE)		
	MORITO SCOVILL MEXICO		
	MORITO SCOVILL AMERICAS	MORITO NORTH AMERICA	

# 5

## 事業トピックス

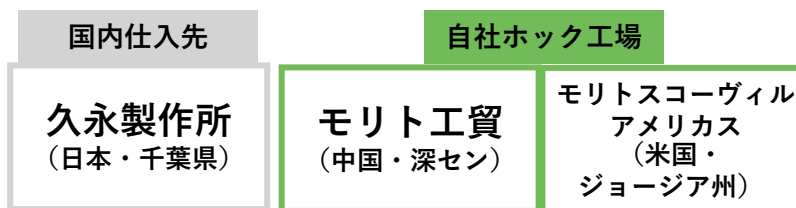
---

## 第8次中期経営計画の進捗 地産地消

モリトの金属ホック製造を80年近く担ってきた国内協力工場である久永製作所がモリトグループに参画。金属ホックの高度な製造技術の内製化を図る。自社製造拠点のマザー工場として位置づけ、「モリト品質」をグローバルに展開。

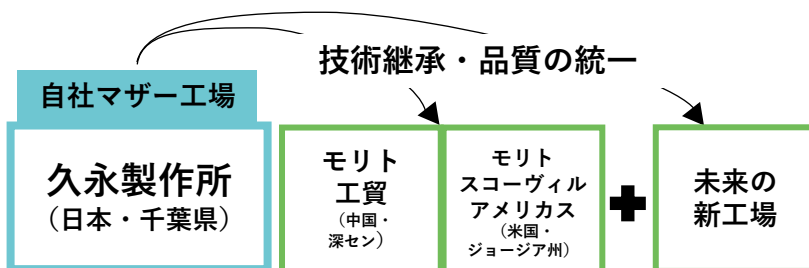
### 従来のホック生産体制

品質は各社毎に設定



エリア毎に品質差があり、  
地産地消が進みにくいのが課題

### 今後のイメージ



久永製作所をマザー工場とし、  
グローバルで「モリト品質」を標準化

➡ 地産地消の加速へ

※グループ内販売が中心のため、  
連結業績への影響は軽微の見込み

## ステンレススナッパー モリトの高付加価値商品 商品例紹介

顧客・消費者ニーズを叶える付加価値を加えたオリジナル商品を独自に開発し、高機能・高品質を求められる顧客の採用を獲得。

商品名：ステンレススナッパー（製造：久永製作所）



医療現場で使用するメディカルガウンに強みを持つ商品。血液などの汚れを落とす強力な洗剤に耐えられる耐薬品性・商業用洗濯脱水に耐えられる耐久性を持つ。さらに、磁気を帯びにくい特殊な製法で、MRI検査にも影響を与えにくい機能性を持ち合わせる。特に、磁気を帯びにくい製法は、他社での生産は難易度が高く、モリトのメディカルガウンのシェアに大きく貢献する商品。

## 第8次中期経営計画の進捗 環境への取り組み

日本国内で回収された廃漁網を100%使用して作られたリサイクル糸「MURON®」を使用したデニム生地が、HELLY HANSENの2026年春夏商品の一部に採用。

公式オンラインストア内特設ページ  
海と街をつなぐ、マリンスタイルの新しい解釈。

**MURON®**

▶ 詳細はこちら



## TEN. 新店舗オープン

Ms.IDが運営するシルバーアクセサリーブランド「TEN.」の新店舗がオープン。2026年11月期1Qも堅調に推移。4月中旬には、台湾2号店もオープン予定。



JR博多シティ アミュプラザ博多



札幌ステラプレイス

# 6

## 株主還元策

---

# 利益配分に関する基本方針

株主に対する利益還元を経営上の重要課題のひとつと位置付け、投資案件および財務状況（純資産等）を勘案の上、下記の方針に基づき、配当額を決定。

安定的かつ継続的  
配当の実現

親会社株主に帰属する  
当期純利益に対する

配当性向は  
50%以上を  
基準

連結自己資本配当率

DOE 4.0%  
基準

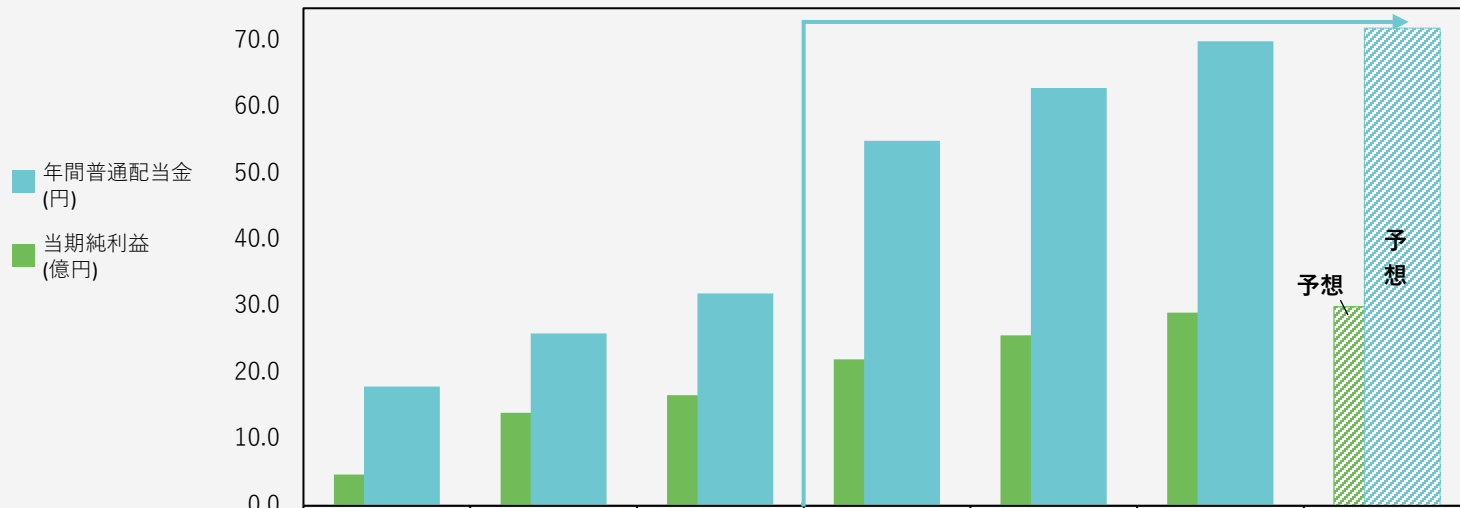
機動的な自己株式取得および適切な消却の実施を引き続き検討

※ただし、特別な損益等の特殊要因により税引後の親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する事業年度についてはその影響を考慮し配当額を決定します。

# 配当金・配当性向・DOEの推移

2020年11月期から6期連続で増配、年間配当は前期比+2円の予想。

2023年11月期より、利益配分に関する基本方針を変更



	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026予想
当期純利益 (億円)	4.7	14.0	16.7	22.1	25.7	29.1	30.0
年間配当 (円/株)	18.0	26.0	32.0	55.0	63.0	70.0	72.0
中間配当 (円/株)	13.25	9.0	13.5	27.0	29.0	33.0	36.0
期末配当 (円/株)	4.75	17.0	18.5	28.0	34.0	37.0	36.0
配当性向 (%)	104.8	50.6	51.4	66.2	64.9	62.6	61.4
DOE (%)	1.5	2.2	2.4	3.9	4.3	4.6	4.6

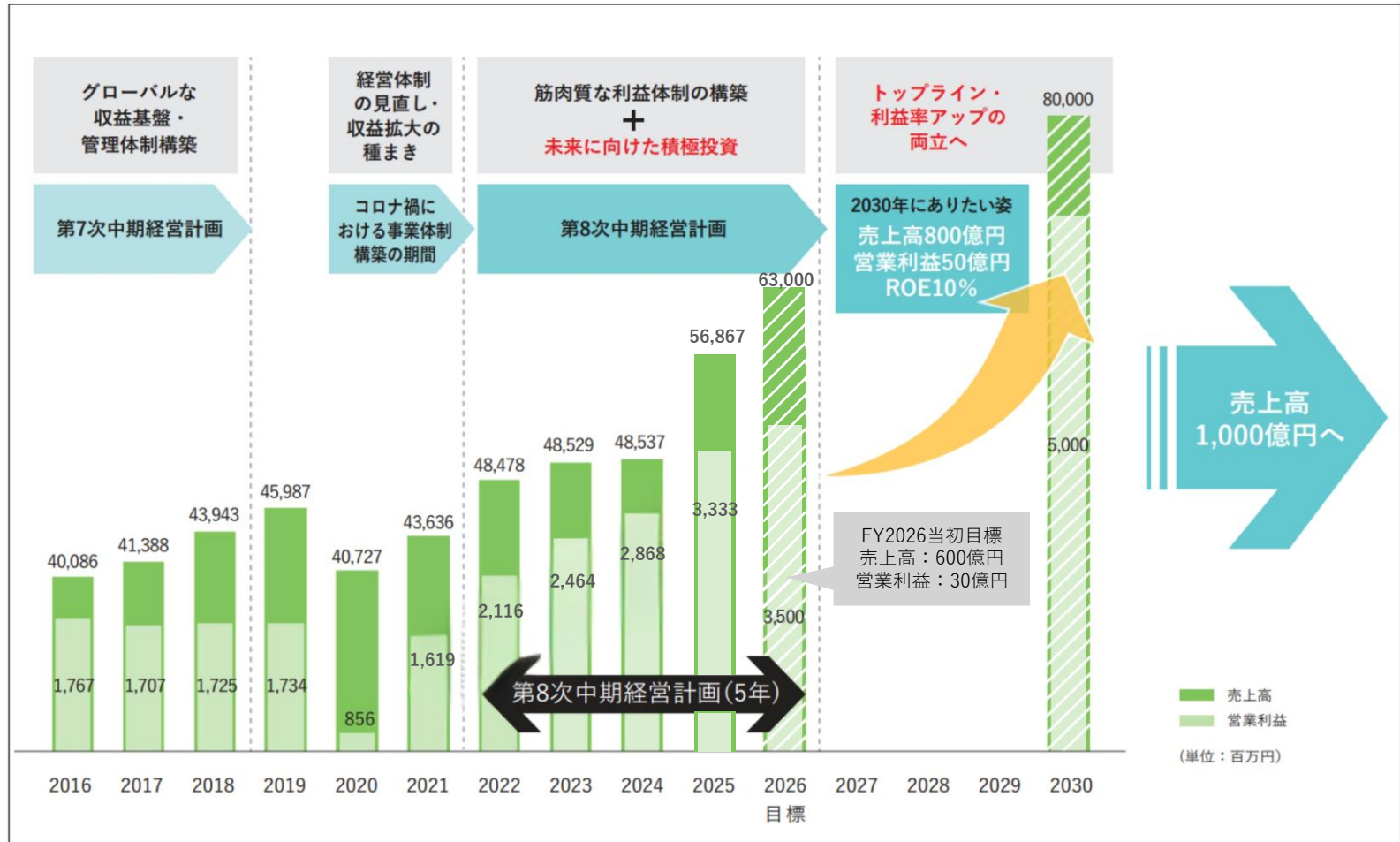
7

## (参考) 第8次中期経営計画

---

# (参考) 第8次中期経営計画の位置づけ

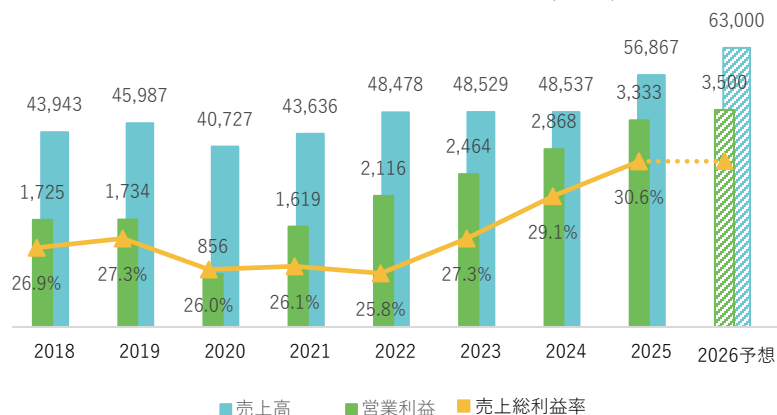
更なる成長への準備期間。営業利益目標30億円は前倒して達成済、売上高も当初目標を超える予想。



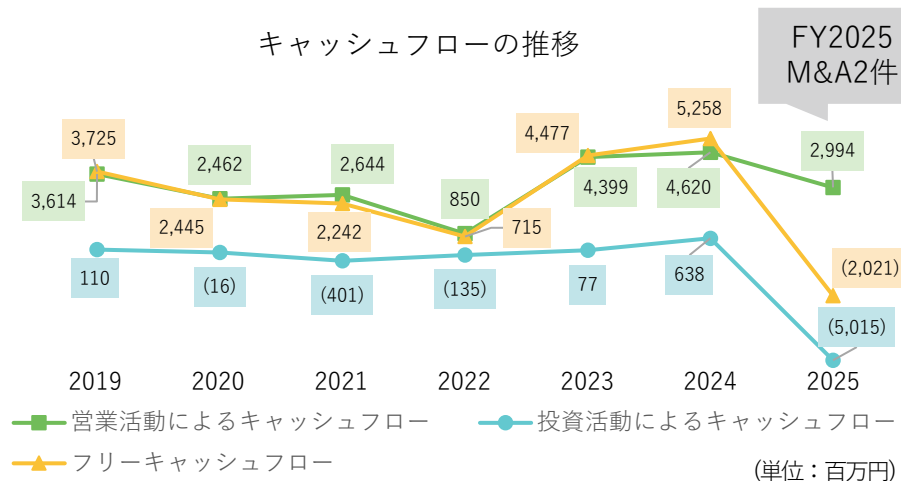
# 第8次中期経営計画（2022年11月期～2025年11月期）の進捗 会社分割に伴う構造改革の成果

## 利益構造とキャッシュフローの大幅な改善

売上高・営業利益・売上総利益率の推移



キャッシュフローの推移



### 8次中計開始当初の課題

- ・ 営業利益の成長が鈍化
- ・ 売上規模拡大の停滞
- ・ 在庫、コスト意識の低さ

### 原因：健全な危機感の欠如

- ・ 他事業と補完し合い安定した収益
- ・ 成長投資が少ない
- ・ キャッシュリッチな財務基盤



### 対策：社員に根付いた価値観・文化の改革

第8次中計の2つの柱

#### ①筋肉質な利益体制の構築

→2022年モリトジャパン(株)を事業ごとに、3つの会社分割  
各事業の課題の見える化、不採算なビジネスの見直しを実行

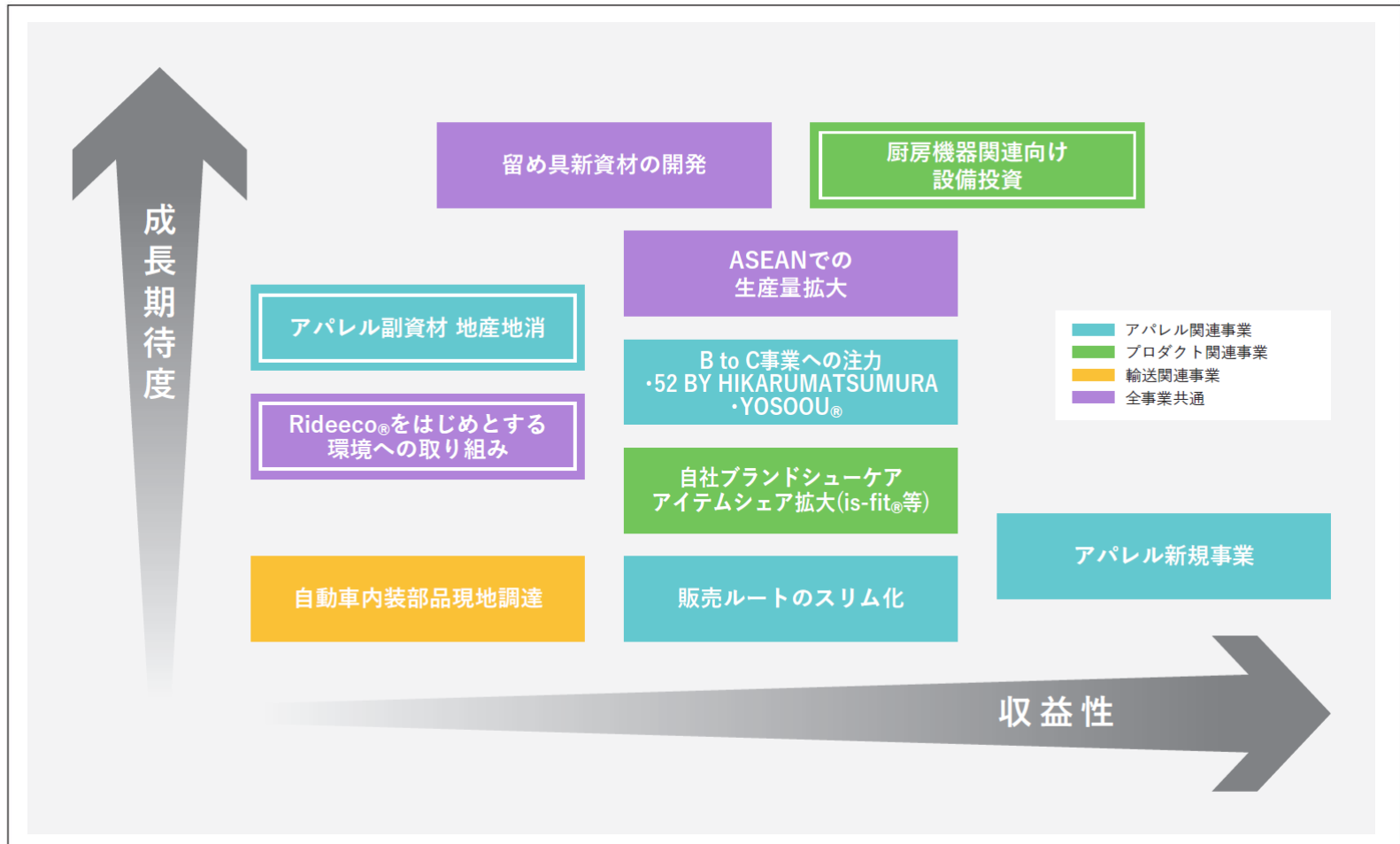
【分社化後の取り組み】

- ・ 利益率アップ→販売条件見直し・賞与制度見直し
- ・ CCC・在庫改善→CCCによるマネジメント層の評価制度新設

#### ②投資戦略策定、未来に向けた積極投資

→設備投資の増加、M&A2件実施

# (参考) 第8次中期経営計画 達成に向けた成長戦略の全体図



## 次期中期経営計画に向けた現状の課題

下記のような課題を解決するため、次期中期経営計画の中で検討中。(2026年夏頃完成を目指し作成中)

### アパレル 関連事業

- ①2つの自社工場、日本製のホックでそれぞれ規格が異なる  
→製造地ごとにクオリティに差があり、顧客によっては日本製の輸出が必須、地産地消が完全でない
- ②服飾資材メーカーに近いポジションでありながら、自社製造が少ない

### プロダクト 関連事業

- ①OEMなど顧客需要に左右されやすいビジネスが多く、大幅な収益改善が難しい
- ②モリト自社ブランドの販売比率が少ない
- ③厨房機器関連事業の既存自社サービスセンターだけでは、日本全国を網羅できない

### 輸送 関連事業

- ①調達が多く低収益、自社製造が少ない
- ②日系自動車メーカーの生産台数の多い北米地域での調達品目が日本・中国より少なく、地産地消が完全でない

### グループ全体

M&Aを実施した企業とのシナジー創出が未完

# 本資料のお取り扱いについて

---

本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。

本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ先      〒541-0054 大阪市中央区南本町4-2-4  
モリト株式会社 IR・広報部          E-mail : ir@morito.co.jp

# MORITO

あたりまえに、新しさ。